

児童の実態（「健やかな体の育成」にかかわる課題）

- 地域には、スポーツチームや体操教室などがあり通っている児童も多い。運動する機会の多い児童とそうでない児童の二極化がみられ、新体力テストでは、50m走・反復横跳びが平均より下回っている。
- 欠席は少ないが、不安感から体調不良を訴えたり、小さなけがで保健室を訪れたりする児童がいる。
- 休み時間は、一日のうちで外遊びをすることを心がけている児童が増えてきた。

「健やかな体の育成」に関する指導の目標・方針

- 運動に親しみながら、心身の健康や体の維持・増進に自ら考え取り組む姿勢を育む。（運動を楽しむ）
- 行事や異学年交流の場面から生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の命を尊重する態度を養う。（仲間作り）
- 生活や学習の中で、様々なことにチャレンジし、自分ではできるという自信をもたせていく。（自己肯定感を高める）

「体育科での取り組み」

体育科では、「体づくりの領域」に重点を置き、用具等を操作しながら、多様な動きを体験し健やかな体の育成を目指す。また、かけがえのない自他の命を尊重できるよう、からだに関する正しい知識を習得し、よりよい生活習慣を身につける。

「他教科での取り組み」

家庭科等での食育を通して、食事が体に及ぼす影響を考え、自らの健康を保持増進しようとする態度を養う。

生活科では、「身近な人との交流」に重点を置き、他学年や地域の方とのかかわりを大切にするによって、自分の思いを伝える楽しさや、相手の話を聞く楽しさに気付くようにする。

「道徳・特活・総合」での取り組み

- ◇ 運動会では、運動の楽しさを味わわせるとともに、最後までがんばることやお互いに助け合うこと、きまりを守ることなどの態度を養う。応援や縦割り競技を通して、異学年交流を深め、学年に応じた役割を果たすようにする。
- ◇ 運動委員会では、みんなで運動する楽しさを知り、習慣がつくような大会を企画する。
- ◇ 保健指導では、児童が自他の生命を尊重し、心身共に健全な発達を図り、健康な生活を営むことができるような態度や能力を養うことを目的とする。
- ◇ 道徳では、生きる楽しさや喜びを知り、生命を大切にすることを養う。

「課外活動」での取り組み

- ◇ 学校保健委員会では、児童代表、児童保健委員、保護者代表、学校医などが集まり、心身共に健康な児童の育成を目指して、学校健康教育についての諸問題を検討しその実践を推進していくための研究、討議等を行っていく。
- ◇ 横浜市陸上記録会への参加・朝練習や夏季水泳教室の実施、区・市水泳大会への参加、ラグビー交流会への参加・朝練習、大縄集会などの運動委員会児童による企画、マラソン週間の啓蒙など、年間を通して様々なスポーツに親しみ、心身の健康や体力の維持・増進に取り組み、自己肯定感を高めていく。

「平成29年度 体力向上1校1実践運動」

<名称> 「様々な運動に親しむ川上っ子の育成」

<ねらい> 運動に親しむ機会を増やし、様々な動きを身につけようとする子を育成する。
運動の場面で仲間との親交を深める機会を増やして、仲間づくりに役立てる。
励まし合い関心をもって運動を継続していくなかで自信をもたせる。

<内容> 運動委員会による集会活動（大縄集会、マラソン週間）や一輪車などの運動教室
横浜市小学校陸上記録会やラグビー交流会への参加及び大会に向けての朝練習
夏季水泳教室、区・市水泳大会、5年生の区球技大会への出場など